

## 2-3. 座間市

No.	1	座間市
-----	---	-----

### 1. 取組の全体像

#### 1. 自治体の概要

①	自治体名	座間市(神奈川県)	②	担当部局名	福祉部地域福祉課
③	人口	132,325(人) <令和2年10月/国勢調査>			
④	自治体内連携	庁内連携(メイン)	連携部局	福祉部地域福祉課	
			連携内容	包括的支援体制構築ワーキンググループ(現状)	
		庁内連携(メンバー)	連携部局	市民広聴課、介護保険課、債権管理課など	
			連携内容	10部19課(現状) 相談業務を中心に相談支援体制を検討し、全庁共有を行う。	

#### 2. 形成をめざす地方版連携PFの姿

①	従前の取り組み ※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等	<ul style="list-style-type: none"> <li>座間にはこれまでの“福祉”で取り組んできた「チーム座間」などのネットワークがある。生活困窮を柱とする包括的な相談支援体制にいち早く着手し、福祉領域でのステークホルダーを独自に発掘、「NPO法人ワンエイド」、「はたらっくざま」(生活クラブ生活協同組合等の共同企業体)、座間市社会福祉協議会などで構成される「支援調整会議」を月1回実施し、支援団体との連携、検討を継続して実施している。</li> </ul>	
②	実現したい状態 ※構築する仕組み/支援対象の住民を取り巻く環境	最終的なゴール	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立官民連携PFではこれまでの“福祉”の枠を超えた地域のステークホルダーとのプラットフォームによりこれまでの支援で抜け落ちていた層への支援の可能性を広げ、一見福祉とは関係のないと思われる団体や人にも気軽に参画・活躍できる枠組みを整備する。</li> </ul>
		今年度のゴール	<ul style="list-style-type: none"> <li>“福祉”の枠を超えて、行政をはじめ様々な支援団体に対して意識の変革を促し、より広い視点での相談支援に資するよう勉強会を通じて意識啓発を行う。</li> </ul>

#### 3. 地方版連携PFにおける連携体制

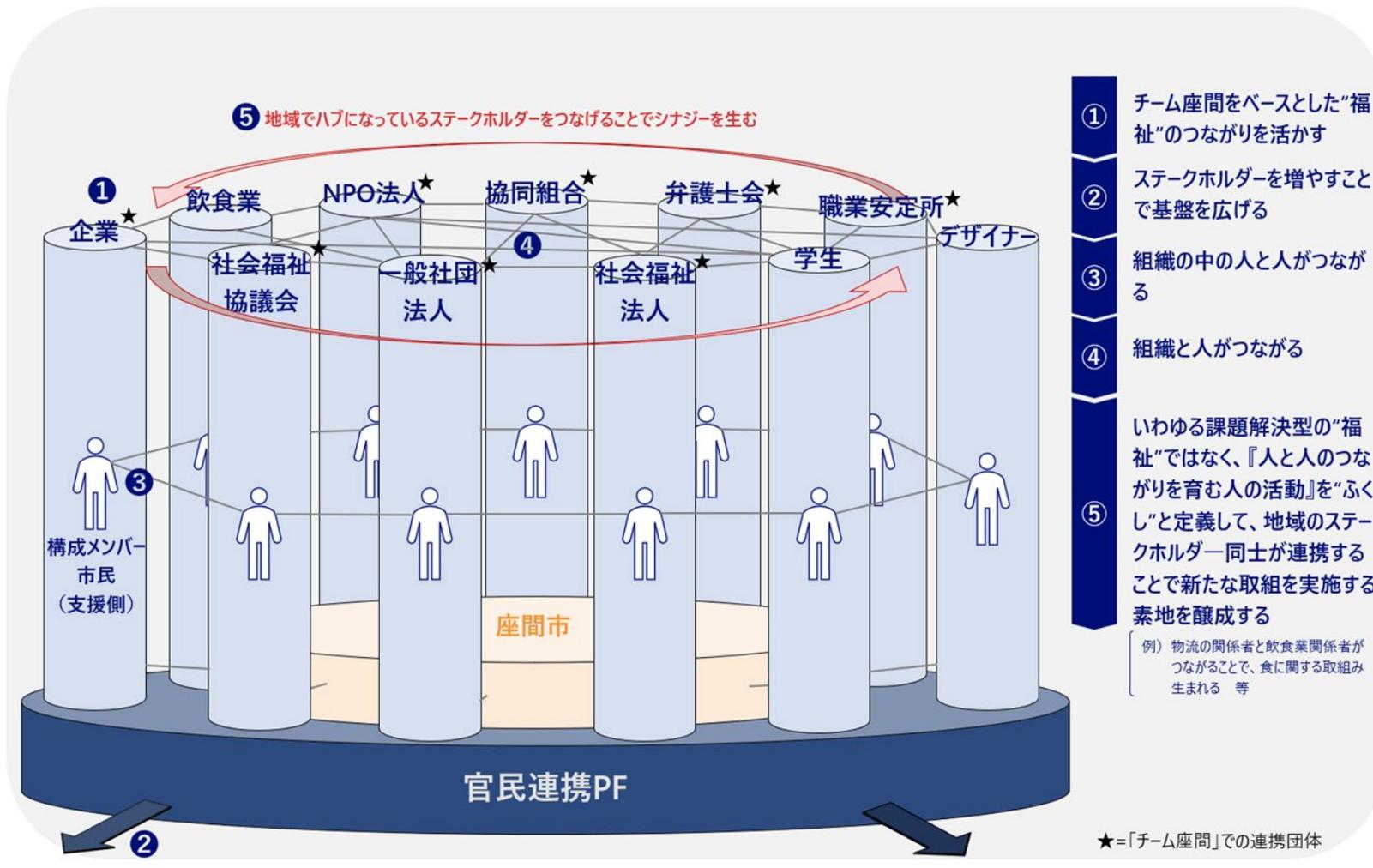
①	地方版連携PF ※各種団体が「水平的」「包括的」に集う最も大きな枠組み	参画メンバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民を含めた直接的な支援者に留まらず「ふくし」的な取組を行っている団体(人)で構成</li> </ul>
		選出・打診時の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>従来の支援体制の外の団体を引き入れるため「福祉支援」を前面に出さずに参加できるよう努める。</li> </ul>
②	地域協議会 ※特に専門性の高い支援を行う団体等で構成	参画メンバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>委託事業者を含めこれまで市と連携し、伴走している支援団体をメンバーの軸とする。</li> </ul>
		選出・打診時の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由な意見が言えるよう日頃から顔の見える関係性を構築する。</li> </ul>

#### 4. PF連携による価値や工夫\_考え方

- 人と人のつながりを育む人の活動(例えばスナックやバー、書店、喫茶店等も)を広く“ふくし”と再定義、ソーシャルワークという言葉も脱構築して、地域の“ふくし”探しをする。
- 広義のふくしについては、時間的制約もあり、取り組み方や、考え方を啓発するに軸を置き現状のネットワークの殻を破る足掛かりとする。
- 既存の「チーム座間」については継続して取組を実施していくが新たなPFを課題の解消の一助とすることで更なる支援体制の拡充を目指す。

## 2. 連携 PF イメージ

### 5. 連携プラットフォームのイメージ図



(連携プラットフォームの内容説明)

座間市における連携プラットフォーム(連携 PF)は、従前からの枠組みである「チーム座間」での福祉関係の団体との連携をベースとしつつ、福祉に留まらない関係団体も含めステークホルダーが参画する枠組みとなっている。ステークホルダーを増やし基盤を拡大し、まずは組織間の人と人がつながり、組織と組織がつながる流れを想定している。課題解決型の枠組ではなく地域のステークホルダー同士が連携することで新たな取組を実施する素地を醸成することを目指す。

### 3. 試行的事業一覧

#### 6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の  
ポイント・工夫

- ・ PF 形成に向けて、これまでいわゆる“福祉”の文脈では関わりの少なかった市民や参画団体の巻き込みを図る。同時に、これまでの連携の基盤も活かしつつ団体の幅を広げる。

	事業名称	事業内容	目的/期待効果・KPI	実施時期	発注先 (予算)
①	アートによる 社会参加の 創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アートの力を活用して、生きづらさを抱え孤立している方の個性を評価し、社会参加へつなげる環境整備を実施。</li> </ul> <p>(1)ワークショップ:アート作品の制作などを通じて、孤独・孤立を抱えている方へ「生きづらさ」に対する視点をポジティブに変えられるような体験をしてもらう。</p> <p>(2)大型展示:インパクトのあるインスタレーションを通じて、市民へ身近に生きづらさを抱えた方が存在することに気付いてもらう。</p> <p>(3)複数展示:アート作品を通じて、孤独・孤立を抱えている方および市民へ生きづらさの中にある魅力に気付いてもらう。</p> <p>(4)トークイベント:アート作品に込めた、孤独・孤立に関する考え方・視点などについて、作家と行政担当者による座談会を実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 目的 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生きづらさを抱えて孤独・孤立を感じている方(ひきこもりや社会になじめない方)へ、就労以外の自己実現の場を創出する。</li> <li>・ 市民へ、生きづらさを抱え、孤独・孤立を抱えている方がいることを知ってもらおう。</li> <li>・ アートに携わる方へ支援のネットワークに入ってもらおう。</li> </ul> </li> <li>✓ 期待効果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 孤独・孤立を感じている方が自分の生きづらさを肯定的に捉えられるようになる。</li> <li>・ 孤独・孤立を感じている方に対して寛容な環境をつくる。</li> <li>・ 就労による自己実現だけでなく、生きづらさの中にある魅力を発見・評価できる体制を整備する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ワークショップ： 1/30</li> <li>✓展 示： 2/20- 2/26</li> <li>✓トークイベント： 2/24</li> </ul>	現代美術家/ 鈴木康広 (約273万円)
			<p>成果 検証 結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ イベントの参加者数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1F ロビー:1460 人程度</li> <li>・ 7階展望フロア:1070 人程度</li> <li>・ トークイベント:120 人程度</li> </ul> </li> <li>➢ 参加者の満足度:およそ9割が「よい」または「とてもよい」と回答</li> </ul>		

②	啓発のための学習会	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで市で繋がりのなかったステークホルダーの巻き込み、これまでつながりがあった団体と新たな団体の関係構築・連携強化を狙いとして、支援する側の団体・組織をターゲットとしたイベント形式の学習会を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PF 参画団体等に対して孤独・孤立に関する問題認識・理解向上を図る。</li> </ul>	✓2/4	(株)グランドレベル (約 91 万円)
			<b>成果検証結果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加団体間での具体的な連携の創出</li> </ul>	

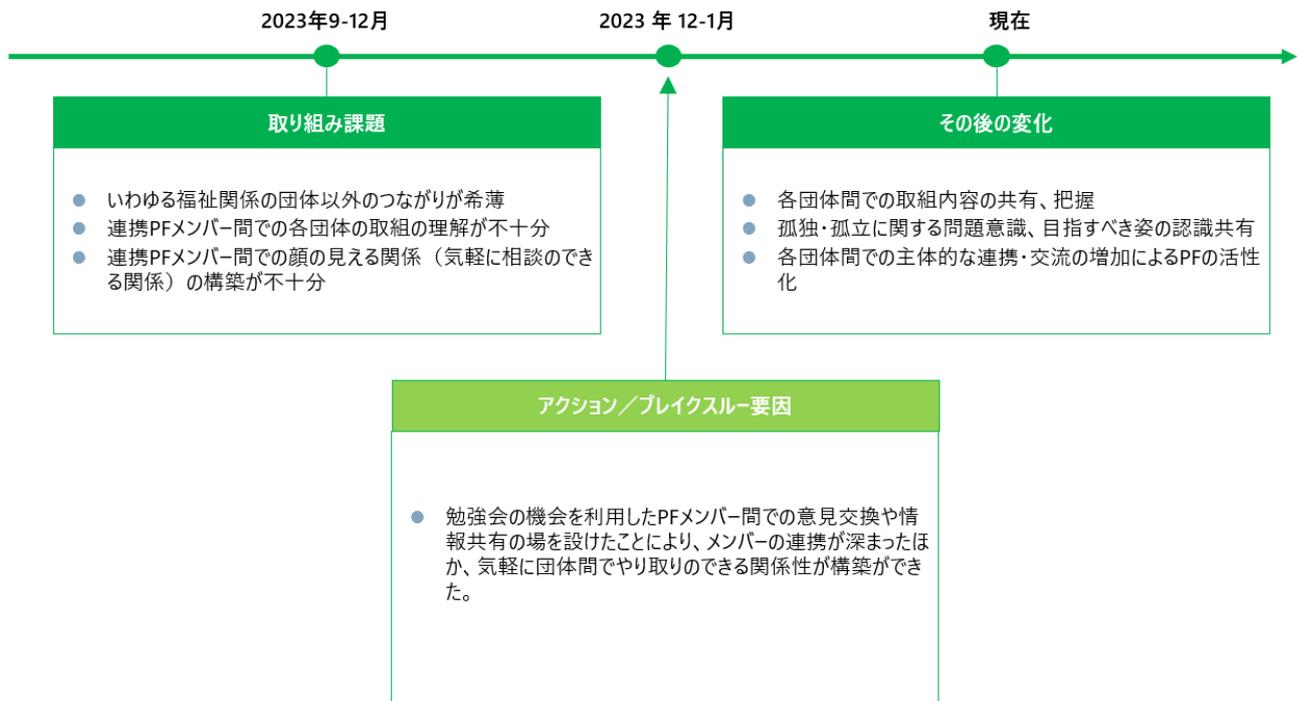
<b>7. 次年度以降に向けた事業等の案</b>	
※PDCA サイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ(あれば)を列挙	
<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立を抱えている方が、就労以外の方法で自己実現をするための支援体制の整備</li> <li>PF での勉強会の継続的な実施</li> <li>アートでの社会参加の創出</li> </ul>	
<b>8. 孤独・孤立対策を公表した際の反響</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の媒体にて「アート展示」、「ワークショップ」に関する報道がなされた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>美術手帖、artscape、Tokyo Art Beat(ウェブ)</li> <li>毎日・神奈川新聞、タウンニュース</li> </ul> </li> <li>アート展示やワークショップでアンケートを実施し、参加者から FB 受領</li> </ul>	

<b>4. 連携PFの行程および実務上の留意点</b>		
<b>(ア) 初期段階</b>		
①	主担当部署・主担当者の設定	<b>■従前からの自治体独自の先進的な取組・連携枠組みをフル活用した、連携体制の構築</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>座間市で先進的に実施してきている支援調整会議や「チーム座間」の取組など、すでに広く連携しているネットワークを活用すべく、素地のある部署として福祉部地域福祉課を選定した。</li> <li>また、当該部署では重層的支援体制整備事業も担当しており、今後の孤独・孤立対策との連携による相乗効果が見込まれた。</li> </ul>
②	地域課題・実態の概略の把握	<b>■日頃の相談業務の中において様々な地域・住民ニーズを把握し、既存の枠組みで対応できない事柄を把握</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで実施してきている『断らない相談支援』の中で、孤独・孤立の相談も含め、地域・住民の課題を広く把握していた。</li> <li>相談の中で行政のリソース、既存制度、既存の枠組みで対応できないことを把握し、それらを解決するための枠組みの検討に活用。</li> </ul>
③	連携 PF の絵姿の描写	<b>■これまでの福祉での連携を活かしつつ、福祉以外の分野の関係者との連携の枠組みを広げる</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの“福祉”の枠を超えた地域のステークホルダーとのプラットフォームによりこれまでの支援で抜け落ちていた層への支援の可能性を広げる。</li> <li>同時に、支援団体側については、直接的には福祉とは関係のないと思われる団体や人でも気軽に参画・活躍できる枠組みを整備することで、さらなる連携枠組みの拡大を図る。</li> </ul>

(イ) 準備段階		
④	地域課題の詳細調査	<p>■問題認識・理解向上を目的とした PF 構成員による勉強会や意見交換を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 既存の連携枠組みはあるものの団体間での問題意識の共有や自発的な意見交換などの実施までには至っていない現状があったことから、まずは PF 構成員による勉強会や意見交換の場を活用して、孤独・孤立に係る地域の課題に関して認識共有の場を設けた。</li> </ul>
⑤	連携 PF の運営形態・体制の検討	<p>■行政と支援団体との対等な関係での「水平的連携」を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「水平的連携」を目指し、あくまで行政と支援団体とが対等な関係で会話ができるように運営を検討した。</li> <li>➢ 従前の取組も含め、座間市では地域・住民からの相談ごとをきっかけに支援に当たって行政だけでは対応できない場合に、必要な支援団体とつながることで、相談を受け付けて解決するためのネットワークができてきた経緯がある。</li> <li>➢ こうした連携の形を活かし、これまでの枠組みで対応できない課題や困りごとに対応すべく、“ふくし”関係の団体にも入ってもらうことで体制を強化する。</li> </ul>
⑥	連携 PF の参加者の検討・巻き込み	<p>■広く庁内で連携している既存の枠組みを活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 庁内で多くの関係部署が広く連携しており、連携の実績もある包括支援体制構築ワーキンググループの枠組みを活用し、連携の足掛かりとした。</li> <li>➢ 庁内の連携では、行政だけで解決ができない課題も含めて地域リソースを活用していかに解決するかなど、いわゆる行政の発想にとらわれないよう心がけをしている。</li> </ul>
		<p>■支援団体との意見交換を通じて、行政の発想にとらわれない PF 参画団体を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ PF で連携する団体の検討に当たっては、行政だけの発想にとらわれないようにすべく、これまでにつながりのない、どのような団体が巻き込めそうか、社会福祉協議会等関係する支援団体等と打合せ、意見交換を実施した。</li> <li>➢ いわゆる福祉の分野ではなく、広義の“ふくし”の分業で連携ができるように、団体を検討し、アートやスポーツ関係の団体など幅広い分野での連携を意識した。</li> </ul>
(ウ) 設立段階		
⑦	域内住民・団体への情報発信	<p>■アートを起点とした情報発信の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ アートによる居場所づくり(ワークショップ、展示会)の実施により、福祉や孤独・孤立という観点では関心の少ない住民も含めてアートを起点に広く情報を発信した。</li> <li>➢ 支援団体向けの勉強会を実施し、団体間での自発的な連携・交流を促進すべく孤独・孤立に関する情報周知を実施した。</li> <li>➢ このほか、食のつながりとして、キッチンカーなど普段つながってない人を通じての周知も実施した。</li> </ul>
⑧	連携 PF の運営	<p>■団体間での連携強化を目的とした勉強会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ PF の運営では、日常の取組の中では直接的には関係性がない／少ない団体も含めて勉強会を実施。PF で連携することにより、直接的な横のつながりがなくても、勉強会をきっかけとして団体間でつながることで課題が解決できる枠組みを目指す。</li> <li>➢ 具体的には、地域で課題があった場合に、支援団体自らが関係しそうな組織に個別に話をいき、支援や課題解決の取組につながる形を目指す。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ また、最終的には、必要な組織の調整も行政が主体的に行うのではなく支援団体(事業者)が自発的に行える枠組みの構築を目指す。</li> </ul>
<b>(工) 自走段階</b>		
⑨	今年度の積み残し課題	<p><b>■行政と関わりの少ない団体も含めたネットワークの拡大が必要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 行政主体で連携体制の構築を行うことは重要である一方、普段関連の深い団体に留まる傾向があるため、きっかけとして初期段階では行政発の連携促進をしつつも、今後いかに団体のネットワークを広げるかが課題。</li> <li>➤ 特に、孤独・孤立に直接的に関係性が少ないと思われる団体の巻き込みには、合意形成や調整に時間がかかることから今後の課題となる。</li> </ul>
⑩	来年度以降の方針	<p><b>■より幅広い団体との連携のために庁内の企画・経済系部署との連携深化も一案</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 福祉関係の部署が推進する際には既存団体・事業との相乗効果などのメリットも見込まれる一方で、いわゆる福祉に関わりの少ない団体との連携には工夫が必要となる。</li> <li>➤ そのため、今後さらなる枠組みの拡大に当たっては企画系の部署や経済系の部署との一層の連携強化も一案となる。</li> </ul>

ブレイクスルー要因	
アクション/ ブレイクスルー要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>勉強会の機会を利用した PF メンバー間での意見交換や情報共有の場を設けたことにより、メンバーの連携が深まったほか、気軽に団体間でやり取りのできる関係性が構築できた。</li> <li>既存の枠組みの中で、具体的な相談ができるほどの関係性がなかった団体間での連携の促進につながった。</li> <li>団体間での自発的な連携・交流を促進したことで、具体的な連携の実施に向けた検討も促進できた。</li> </ul>



## コラム ～地域の支援団体から見た孤独・孤立対策と連携 PF の重要性～

### 就労準備支援事業「はたらっく・ざま」

- ・ 「はたらっく・ざま」は、共同企業体(生活クラブ、NPO ワーカーズコレクティブ協会、さがみ生活クラブの3者)として、座間市から委託を受けて座間市就労準備支援事業を運営しており、「はたらっく・ざま」には1300人の組合員がいる。
- ・ 本事業は仕事辞めて時間が経っていたり、働いたことがなかったり、就労経験が少ないため働くことに不安をもつ方を対象に、具体的には、働く前の生活リズムを整えるための講義や演習、職場体験を通し自分の強みと苦手な部分を見つける実習などの支援を、座間市の担当者(生活援護課自立サポート担当)と相談しながら実施。
- ・ 就労支援事業を中心としつつ、座間市民をつなぐということを意識して活動を実施。

#### 🗨️各支援団体の幅広に相談を受ける心構え及び住民の認知が重要

- ・ 現在の社会や地域には、自分のことは自分でやるべきという価値観が蔓延している。相談をする人は弱い人と思われるために、相談がしにくい社会になっている。また、専門性が高いがゆえに相談窓口も多様化しており、適切な相談先が判然としない状態になっている。
- ・ 困りごとがあった場合に、本当に最適な相談先かどうかにかかわらず、どこかの支援団体に相談に行けば適切な相談先につないでもらい、必要な支援先につながる事ができる相談先があることが住民に認識されることが重要。
- ・ 必ずしも専門性が高い集団ではなくとも、支援団体や PF の団体それぞれが相談を幅広く受け持ち、それを他の団体・機関につないで地域として解決につなぐ仕組みができているということを明示する必要がある。

#### 🗨️団体間でゆるくつながること・団体間の取組の理解が重要

- ・ 団体間では思っている以上に各団体の取組内容について、理解できていないことが多く、住民から相談があった場合に他の支援団体に、簡単に相談ができるまでの関係にはなっていないケースが多い。
- ・ 今後は、専門性の高い団体・機関だけではなく、幅広い団体間でゆるい関係が広がる事が重要であり、様々な団体が気楽に参加できるような形を目指していく必要がある。
- ・ 同時に、各団体の持っているリソースや能力を共有し、困りごとを一緒に解決できる関係・場づくりも重要となる。

#### 🗨️枠組みを作る際には初期段階で多くの団体でコンセプトを考えることが重要

- ・ 団体と団体とが連携するとなると、組織内で調整が必要になるため、初期段階でコンセプトや考え方をしっかりと理解してもらうことが大事。
- ・ 枠組みの絵を描いた後に参加する場合は他人事になってしまうため、枠組みを有効に機能させる観点からは、設立段階で大勢の人で絵を描くこと、加えて、いかに多くの人を集めることができるかが重要。

#### <ハロウィンカフェ>



断らない相談支援はつなぐと言うこと。座間市民が持つ優しい「ふくし」を上げつなげることで、孤独・孤立にある方達の安心して暮らせる地域が生まれると確信します。誰でも参加できる緩やかな PF がたくさん必要になっています。

はたらっく・ざま 代表  
岡田 百合子

## 5.自治体等との打合せ記録一覧

No.	日時	打合せ相手団体	出席者	
			打合せ相手	NRI
1	7/27(木) 17:00-18:00	座間市 福祉部 地域福祉課	林様、谷田様、武藤様	生駒、谷本、宮澤
2	8/18(金) 15:30-16:30	座間市 福祉部 地域福祉課	林様、谷田様、武藤様	生駒、宮澤
3	9/20(水) 15:00-16:00	座間市 福祉部 地域福祉課	谷田様、武藤様	生駒、谷本、宮澤
4	10/5(木) 9:00-10:00	座間市 福祉部 地域福祉課	谷田様、武藤様	生駒、谷本、宮澤
5	10/18(水) 17:00-19:00	座間市 福祉部 地域福祉課 現代美術作家	谷田様、武藤様 鈴木様、斎藤様	生駒、谷本、宮澤
6	10/26(木) 16:00-17:00	座間市 福祉部 地域福祉課	谷田様、武藤様	生駒、宮澤
7	11/8(水) 11:00-12:00	座間市 福祉部 地域福祉課 グランドレベル	谷田様、武藤様 田中様、大西様	生駒、宮澤
8	11/21(火) 15:30-17:00	座間市 福祉部 地域福祉課 現代美術作家	谷田様、武藤様 鈴木様、斎藤様	宮澤
9	11/28(火) 11:00-12:00	座間市 福祉部 地域福祉課 グランドレベル	谷田様、武藤様 田中様、大西様	宮澤
10	12/8(金) 11:00-12:00	座間市 福祉部 地域福祉課	谷田様、武藤様	宮澤
11	1/12(金) 18:00-19:00	座間市 福祉部 地域福祉課 現代美術作家	谷田様、武藤様 鈴木様、斎藤様	宮澤
12	1/23(火) 9:00-10:00	座間市 福祉部 地域福祉課 グランドレベル ソーシャルワーカーズラボ	谷田様、武藤様 田中様、大西様 今津様	宮澤
13	2/14(木) 10:30-12:00	座間市 福祉部 地域福祉課	谷田様、武藤様	生駒、宮澤

## 自治体による従前からの取組

### ■ 生活困窮者自立支援制度「断らない相談支援」による支援体制づくり

#### (取組概要)

座間市では、さまざまな問題を抱えて生活に困っている方の課題解決と自立を支援。

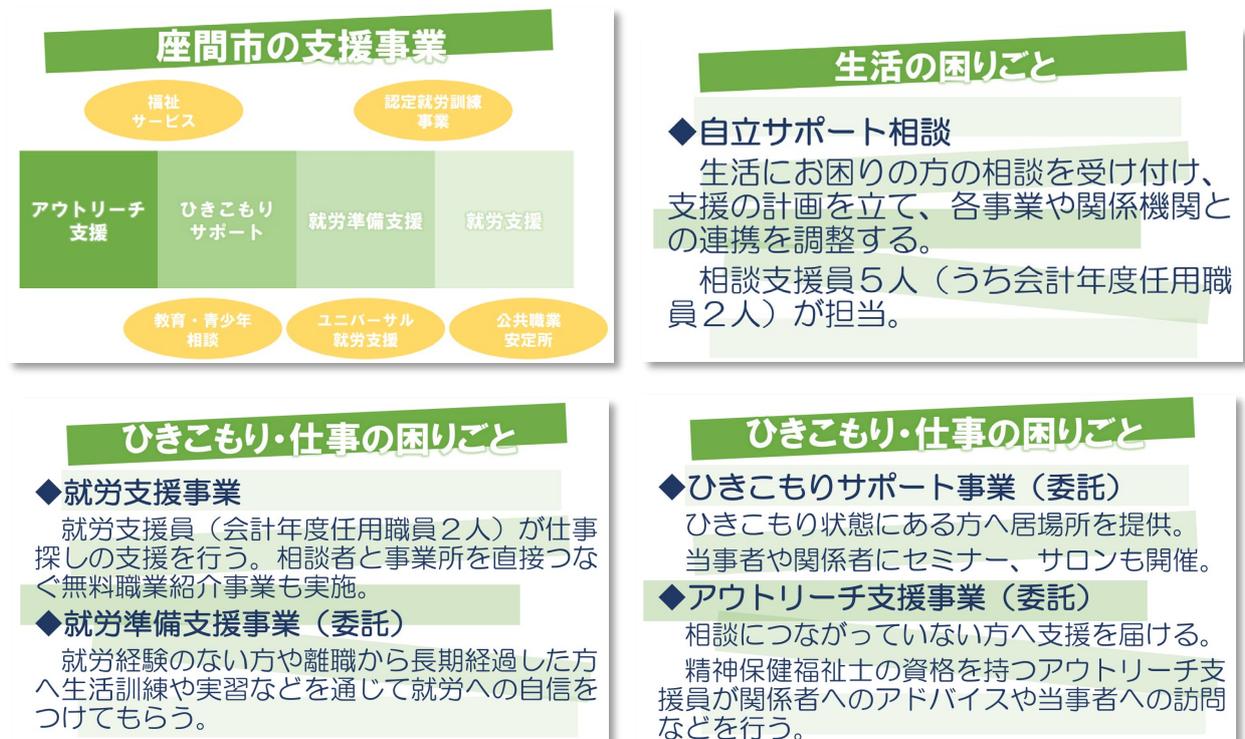
相談支援員は、課題解決のために何が必要か一緒に考え、具体的なプランを作成し、自立に向けた支援を実施。相談は、本人だけでなく、家族や関係者からも受け付けている。

具体的な支援の種類として、自立相談支援、就労支援、就労準備支援、居住支援、住居確保給付金等の支援を実施。

図表 断らない相談支援



図表 座間市の支援事業



■ 包括的支援体制整備WG等を中心とした庁内連携

(取組概要)

「生活に困りごと」の支援を通じた庁内連携体制の構築を検討。庁内ルールや連絡体制など、包括的な支援体制の仕組みを整備。平成29年度に行政改革推進委員会の専門部会として発足し、令和2年度にワーキンググループへ移行した。

「生活困窮者支援」を福祉だけの問題ではなく、市役所へ来る方は困りごとを抱えている可能性があると考え、市役所全体で、市民の困りごとに「きづき」、適切な支援へ「つなぐ」ための仕組みを検討している。

図表 つなぐシート・相談チャート

### つなぐシート



平成30年度に試行し、令和2年度から本格実施した仕組みです。

複数部署がかかわる困りごとを支援する場合に使用し、たらい回しの回避や相談負担の軽減、職員力の向上を目的としています。

### 相談チャート



令和2年度に作成した、市民の困りごとへ気付くための図です。

各部署および新規採用職員へ配布しています。

図表 職員研修

### 職員研修

庁内連携の重要性や考え方について、集合型や庁内ネットワーク、新規採用職員向けなど、令和元年度からさまざまな方法で研修を実施しています。



## ■ 居住支援協議会

(取組概要)

高齢や障がい、低所得など、さまざまな理由で住まい探しにお困りの方の支援を検討する会議。

居住支援協議会は、経済的にお困りの方、高齢の方、障がいのある方、子育て中の方、外国籍の方など、住まい探しにお困りの方および住宅を貸し出している方への情報提供や円滑な入居に必要なことを話し合うことで、豊かで住みやすい地域づくりに貢献することを目的としている。

図表 居住支援協議会

### 居住支援協議会

高齢や障がい、低所得など、さまざまな理由で住まい探しにお困りの方の支援を検討する会議です。

入居の支援や物件の安全確保、物件情報の提供などを話し合います。

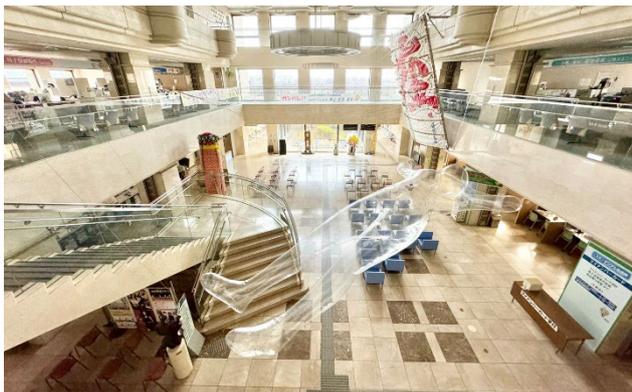
行政、不動産事業者、関係団体などが同じ目線で話せる組織を目指しています。

試行的事業	
④ アートによる社会参加の創出	
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代美術展「空気の人／分光する庭」(展示) <ul style="list-style-type: none"> <li>トークイベント「見えない個性を発見する」</li> <li>ギャラリートツアー</li> </ul> </li> <li>ワークショップ</li> </ul>
結果	<p>【展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イベントの参加者数(1F ロビー:1460 人程度／7階展望フロア:1070 人程度／トークイベント:120 人程度)</li> <li>満足度:およそ9割が「よい」または「とてもよい」と回答</li> </ul> <p>【ワークショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援する側・される側ではない個性の評価を通じて、当事者の生きづらさへの感じ方の変化があった。</li> <li>一般参加者にとって、孤独・孤立に関する理解・認識向上や視点の変化など気づきがあった。</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>アートを通じて、これまで孤独・孤立問題や福祉に関心が少ない住民も含めて参加者に、孤独・孤立に関する視点・問題意識をもつきっかけとしてもらう。</li> <li>ひきこもり状態など孤独・孤立を感じている当事者と一般参加者で協働作業を行い、福祉的なものではなく、アートの視点から個性の評価を行う。</li> </ul>
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民や PF 参画団体等に対してアートをきっかけに、孤独・孤立に関する問題認識の共有及び理解向上を図る。</li> <li>一般参加者に孤独・孤立の問題が当たり前にあるものだと気付いてもらう。</li> <li>生きづらさを抱える方にネガティブな個性の魅力に気づいてもらう。</li> </ul>
▼プログラム内容	
<p>【作品展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名称:現代美術展「空気の人／分光する庭 鈴木康広」 ※トークイベント、ギャラリートツアーも期間中に実施。</li> <li>日程:2024年2月20日(火)ー2月26日(月)</li> <li>会場:座間市役所 ロビー(1階)・展望フロア(7階)</li> <li>展示内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>市役所1階ロビー…大規模展示《空気の人》</li> <li>展望フロア…中小規模の作品を複数展示。座間市在住の参加者とのワークショップをもとに協働制作した作品《分光する庭》も展示。</li> </ul> </li> <li>概要:これまで福祉の観点や孤独・孤立問題に関心が少なかった方々に対しても、アート作品を通じて認識・理解向上を促すきっかけとする。具体的には、見慣れたものや何気ない自然現象を捉え直し通常は結びつかない物事の中に新たなつながりを発見する、または、錯覚などをきっかけに自身のものの見方が変わる作品を通して世界を見ることで、日常において誰もが陥る可能性があるものの、認識するきっかけが少ない、孤独・孤立に関する気づき・認識・理解のきっかけとする。同時に、各人の孤独・孤立に関する視点の変化や考え方の変化につなげる。</li> </ul>	

図表 プログラム(チラシ)



図表 空気の人(大型展示)



図表 ルーペの節穴(中型展示)



- トークイベントでは、アーティストの鈴木氏と座間市の職員での今回のアートによる居場所づくりと孤独・孤立の関係性や、各作品に込めた考え方について紹介するとともに、視点や考え方を変えるアートの取組・体験についてディスカッションを実施。
- ギャラリーツアーでは、作家による各作品の解説を実施。

図表 トークイベント



図表 ギャラリーツアー



【ワークショップ】

- ・ 名称:現代美術展「空気の人／分光する庭」
- ・ 日程:2024年1月30日(火)午前/午後
- ・ 会場:プラっとざま
- ・ プログラム内容
  - ・ 「2人の境界線を引く」(参加者:14名)
    - ・ 参加者それぞれが「座間」でイメージする色の色鉛筆を半分に削り、重ね合わせることで一つの線を引く。
  - ・ 「好きと嫌いの詩」(参加者:15名)
    - ・ 参加者それぞれの“好き”と“嫌い”を書き出し、共有し、それぞれの詩を作る。
- ・ 概要:現在支援につながっている当事者と一般参加者が共同での作品の制作を通じて、当事者にとっては、日常の暮らしの中では評価されない個性や側面について気付きを与えることで、個性の再評価・自己肯定感の向上につなげる。同時に、一般参加者にとっては、当事者との共同作業を実施することで孤独・孤立の問題が当たり前にあるものだと感じてもらおうとともに、必ずしも日常の暮らしの中で評価されない個性であっても評価される体験を通じて、孤独・孤立に対する視点・考えの変化につなげる。

図表 ワークショップ

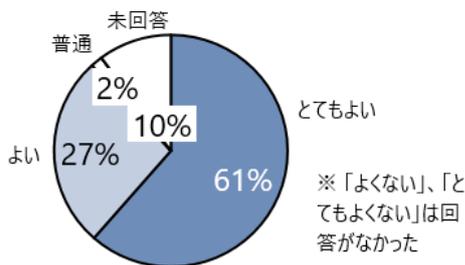


▼実施結果

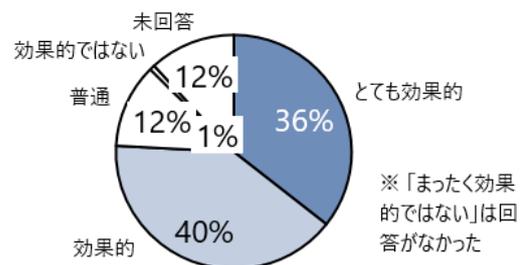
【作品展示】

- ・ 作品展示に当たって、参加者に対して満足度やアートによる孤独・孤立へのアプローチに関するアンケートを実施し、いずれも高い評価を得ることができた。
  - ・ 美術展の満足度 → 8割以上が「変化があった」と回答
  - ・ アートによる孤独・孤立へのアプローチについて → 8割弱が「効果的」と回答
  - ・ 新しい気づきや考え方の変化について → 8割以上が「変化があった」と回答
  - ・ 生きづらさや個性の多様化について → 8割弱が「興味をもった」と回答

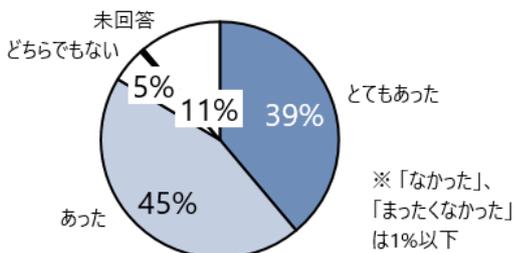
■ 現代美術展の満足度 (N=542)



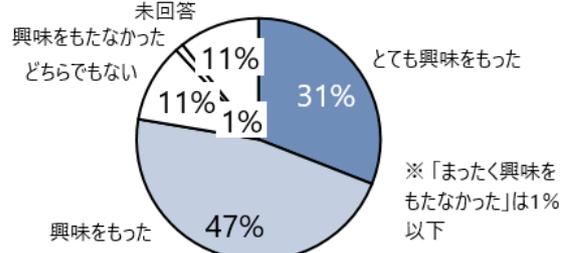
■ アートによる孤独・孤立へのアプローチについて (N=542)



■ 新しい気づきや考え方の変化について (N=542)



■ 生きづらさや個性の多様化について (N=542)



- アンケート自由記載(一部抜粋)
  - 孤独・孤立という一見かわりにくいテーマもアートにすることで非常に敷居が下がった。
  - 世の中には様々な生きづらさや色々な個性があり、作品を通じて新鮮なアイデアや視点を得ることができた。
  - どの人も持つ生きづらさを自身の事として考えるきっかけとなった。
  - ひきこもりの人たちと普段接することはありませんが、作品を通して接することができた。

#### 【ワークショップ】

- ワークショップ参加者にアンケートを実施し、アート作品を通じて、孤独・孤立の問題意識を持つ、人とのつながりを感じるきっかけとなる、自己表現の可能性を感じるなど、参加者の孤独・孤立に関する意識の変化のきっかけとなった。
- アンケート自由記載(一部抜粋)
  - 「好きと嫌いの詩」の色々な詩を読んでみて共感する部分が多く、実際にはその詩を書いた人と会って話しているわけではないが、なんだかつながっている気分になった、孤独・孤立へのアプローチとして非常に効果的だと感じた。
  - 普段意識していないような事柄でも他の人は好嫌を感じていたり、感じ方や視点が沢山あり面白い。アートという場にする事で誰でも自己表現ができるので可能性を感じた。
  - 支援が必要な人もそうではない人も大差ないことを互いに知るきっかけになる。
  - ワークショップやアートを見ると他者とのつながりを感じられる。
  - 孤独や孤立の当事者にとって、アートの伝える力はとても影響力があると感じた。
  - 孤独や孤立は目に見えない、生きづらさがある。目に見えないからこそ、アートを通じて見えないものが見えた気がした。

#### 【考察】

- 作品展示及びワークショップを通じての事業の結果についての考察を下記のとおり整理した。
- まず、作品展示に関して、期間全体を通じて 1500 名弱の来訪があったこと、アンケート結果を踏まえてもアートが孤独・孤立に対するアプローチとして有効であると多くの方が回答しており、さらに、新しい気付きや考え方の変化を感じ、生きづらさや個性の多様化へ興味をもつきっかけとなったとの回答が大半を占めていることなどからも、特にこれまで福祉や孤独・孤立に関心が少なかった住民に対して、まずは孤独・孤立問題・対策の認識をもってもらおう点において、効果があったと考えられる。
- また、今回の展示作品では、“孤独・孤立”という日常に当たり前に存在し、誰もが陥り得るものであるものの普通の生活の中で気づきかけの少ない問題に対して、視点を変える、ものの見方を変えるとといった気づきを与える作品を中心に展示するほか、実際に支援を受けている当事者とのワークショップの中で作り上げた作品を展示すること、加えて、作品と“孤独・孤立”の関係性についてのキャプションないしは作家や行政職員による丁寧な解説・説明を通じて、参加者に普通の生活の中で気づくことの少ない、当たり前に存在する孤独・孤立問題に気づきかけとなるとともに、同時にアートを通じて人とのつながりを作り出す可能性についても理解を促すことにつながった。単に作品を展示するだけでなくキャプションや丁寧な解説を同時に行うことで、孤独・孤立と作品の関係性や問題そのものへの理解促進が有効に図れると考えられる。
- このほか、ワークショップに関しては、支援につながっている当事者にとっては、ワークショップの中で、日常の暮らしの中では評価されにくい個性や側面について気付きを得ることで、アートを通じた自己表現や社会参加の可能性を体験し、個性の再評価・自己肯定感の向上につながったと考えられる。同時に、一般参加者にとっては、当事者と実際に共同作業を実施することで孤独・孤立の問題が当たり前にあるものだと気付いてもらうとともに、アート作品と“孤独・孤立”の関係性についての作家や行政職員による解説・説明を通じて、必ずしも日常の暮らしの中で評価されにくい個性であってもアートの分野などでは評価され得るという考え・視点の変化・多様化につながったと考えられる。

### ⑤ 啓発のための学習会

概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>名称:座間ではじめるやさしいまちづくり</li> <li>日程:2024年2月4日(日)</li> <li>会場:喫茶ランドリー ホシノタニ団地</li> </ul>
結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントの参加者数(30人程度)</li> <li>満足度:およそ9割が「よい」または「とてもよい」と回答</li> </ul>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> <li>「福祉」を地域や日常に根付くものへと、より広義で活動的なものにする取組を実施している田中氏、今津氏をプレゼンターとして呼び、多様な分野の団体が孤独・孤立と</li> </ul>

- 関連していることを啓発。
- いわゆる福祉関係の団体だけではなく、これまで市としてつながりの少なかった団体・組織等を PF に参画してもらうべく行政のみならず関係団体を通じての呼びかけを実施。

ねらい

- PF 参画団体等に対して孤独・孤立に関する問題認識・理解向上を図る。
- 団体間での連携を図る。

▼プログラム内容・実施結果

- プレゼン
  - 田中元子 (株)グランドレベル代表
  - 今津新之助 SOCIAL WORKERS LAB ディレクター
  - 林 星一 座間市地域福祉課 課長
- 参加者との意見交換

図表 プレゼンターによる主なプレゼン内容／主な意見交換の内容

主なプレゼン内容	主な意見交換の内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独・孤立の取組に関して、福祉に関する活動やサービスの提供方法について、足し算方式ではなく、既にある資源や優しさを見つけ出し、それを活かす方法・考え方について紹介。</li> <li>福祉に関わる活動に、福祉を専門に学んでいない人々や一般市民がどのように参加しているのか、特に、異なる分野からの参加者がどのようにしてこの活動に関わっているのかを説明。</li> <li>公園や公民館などの公共の場をより良くする事業を紹介し、地域コミュニティの活性化には、公共の場の活用が効果的であることを紹介。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者が自己紹介を行い、それぞれの役割、自らが関わっている孤独・孤立や広義の福祉に関する取組や社会貢献活動について共有。</li> <li>参加者間で今後の具体的な連携に向けた話し合いや提案が行われた。</li> <li>各団体での居場所を提供する取組が、住民にとって安心感を提供し、社会とのつながりを取り戻すきっかけになっているといった意見が多くあった。</li> </ul>

図表 チラシ

座間でのやさしさ探検隊  
キックオフパーティー

～ここはやさしさについて語りあえるまち～

日本中どこでも、やさしさを探検して暮らせる町を目指します。児童や福祉などさまざまな分野への行政の体制の充実や、まちにない資源の活用、若き世代の活躍、まちを元気にする活動、市民参加型活動など、一緒に活動してみませんか？

田中元子 Motoko TAMAKA  
株式会社グランドレベル 代表  
座間ランドリー オープン

今津新之助 Shinnosuke IMAZU  
一般社団法人ぼくら 代表理事  
SOCIAL WORKERS LAB ディレクター

林 星一 Selichi HAYASHI  
座間市 地域福祉課 課長

2024年2月4日(日) 13時30分～18時(休憩:13時)

会場 | 座間市 市民センター ホシノタニ図書  
神奈川県 座間市役所3-551 1F ノンタニ階3号棟1階

参加費 | 無料

主催 | 座間市 地域福祉課  
協賛 | 株式会社グランドレベル

問合せ先 | 座間市 地域福祉課 046-253-247

やさしさに つつまれる まは

図表 学習会の様子



- 市としてこれまで連携してきた主に福祉にかかわる組織・団体と、サッカーチームなど新たな団体の間で新たな取組・活動のきっかけとなった。
- このほか、これまでの枠組みで連携してきた団体間でも、互いの取組を知るきっかけとなり、団体間で相談のできる関係が構築できた。

図表 主な参加者／団体

主な参加者	
<ul style="list-style-type: none"> <li>• サッカーチーム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 民生委員</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育園</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NPO</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• デザイナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大学生</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 社会福祉協議会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 就労支援機関</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 葬祭事業者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• こども食堂・学習支援関係者</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子育て支援組織</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 市議会議員</li> </ul>